

No.450

 スギ ^{ひかりぶそく} 光不足 ^{そだ} をのりこえて育つ

富山県の面積の 70% は森や林で、その中で最も多い木がスギです。神社や水田地帯の屋敷には必ずといっていいほど植えてある普通の木ですが、一粒の種が大木になるまでの道のりは、簡単なものではありません。

右上の写真は、芽生えて2年目のスギの赤ちゃん。大きくなると身長約30m、ウエスト約5mの大木に育ちます（右下の写真）。

小さなスギの一番の敵は、光不足。森の中は、地面に近い場所ほど、木や草の影になって暗いので、地面に落ちてしまった種は、芽を出してもすぐにかれてしまいます。写真の赤ちゃんスギは、何年も前に倒れて腐りかけている木の上で育っています。地面より1mほど高い場所なので、草に覆われることなく芽生えて、ようやく10cmに育つことができました。

光不足の問題はまだ続きます。この場所の光の量は生きていくだけでもぎりぎりなので、1年間に伸びる長さはわずか5cmほど。30年たっても身長約150cm、ウエスト1-2cmにしかなれません。

スギの子供は、なぜこんなに苦しい思いをして、何年も耐え続けるのでしょうか。それは、待っていれば、近くで光をさえぎっていた大木が倒れて、強い光が自分に当たる日が来るかもしれないからです。大木が倒れた直後には、森の屋根に大きな穴があいたかのように、空から強い光がふり注ぎます。するとスギの子供たちは、がぜん元気になってぐんぐん伸びていくのです。

私たち人間の一生の時間から考えるとのんびりしていますが、森で500年・1000年生きるスギにとっては、30年はわずかな時間なのでしょう。生き物には、それぞれの生長のための作戦があるようです。（太田道人）

